

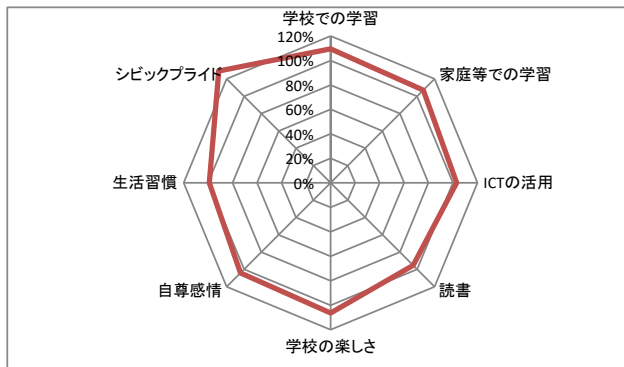
令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全体的に全国・県平均どちらとも下回っている。特に情報の扱い方に関する事項に対する力が弱い。	下回っている
数学	全体的に全国平均も県平均も下回っている。特に各領域の思考・判断・表現に関する事項に対する力が弱い。	下回っている
英語	「聞くこと」の問題を得意とする生徒が多いが、「書くこと」においては、知識・技能が身につけていない生徒が多いので、解けていない。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 生徒につけたい力を明確にした授業づくりと補充学習による基礎学力の定着に努める。
- 放課後の補充学習や、宿題プリントを中心とした家庭学習、課題の提出を徹底する取組を継続する。
- 説明文や長文問題、資料を活用する問題に慣れさせ、読解力や分析力を身に付ける授業に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 食育指導等を通して、食の大切さ、特に充実した学校生活を送る上での「朝食の重要性」について啓発する。
- 学年が上がるとともに、時間、内容ともに効果的な家庭での自主学習習慣を身に付けさせる。
- 学校通信、学年通信、学級通信、集会等で基本的な生活習慣や家庭学習の意義、取組について理解を図